

# 徳伸ベトナムに生産拠点

金属部品加工の徳伸(本社日進市岩崎町大塚85、牧博史社長、電話0561・72・1106)は、海外進出計画を進めている。取引先の自動車部品メーカーの多くが東南アジアに拠点を構えていることや、3年前から採用を始めたベトナム人エンジニアが継続して就労できることから、ベトナムへの生産拠点開設を検討している。現在、進出地域や工場の規模、設備などの検討を進めており、2021年度中の開設をめざす。



牧雅則専務

同社は1955年、牧鉄工所として創業。切削、研削加工を中心とした金属機械部品の生産を開始した。1個からの単品受注や多品種少量生産への対応に強みを持ち、2019年4月期の売上高は1億4800万円。従業員数は9人。

近年、金属部品を測定する

(日進・天野こず重)

ゲージや組み立てに使用するD/CAM(コンピュータ治具の製造部門が売り上げを)による設計・製造)を使った伸ばしている。これらの製造 製品設計や技術開発などを任を担当しているのが、3人のせられるようになったことベトナム人エンジニアだ。

3年前、知人の紹介でベトナムの技術系大学を卒業し現

## 21年度中開設へ検討進める

地企業で就業経験がある技術で、付加価値の高い製品の提供者の採用を始めた。採用した案や高精度、短納期の依頼にベトナム人エンジニアにCA 応えられるようになった。

ベトナムへの生産拠点の開設は、今後の持続的な成長と慮して検討を始めた。ベトナム人エンジニアが将



①ベトナム人エンジニアが働く工場  
②単品、多品種少量で差別化している(製品の一部)

には日系自動車部品メーカーが多く進出していることや、現地で単品受注に対応できる金属加工メーカーが少ないことから、需要が見込めると判断した。

19年には中小機構の国際化支援アドバース・伴走型支援企業に採択され、現在同機構の支援を受け、事業計画の策定を進めている。

牧雅則専務は「日本向けだけでなく、東南アジア地域に向けても製品を提供できる拠点にしていきたい」と話している。

## グローブ・ハート

### ワーク・ライフ・バランス推進

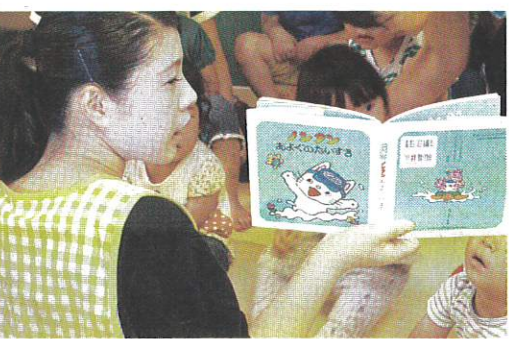
保育園事業を手掛けるグローブ・ハート(本社名古屋市中区大曾根2の8の26、小澤清隆社長、電話052・508・5465)は、2月に名古屋市中から「ワーク・ライフ・

バランス推進企業」の認定を受けた。保育士の労働環境の改善を図り、子供と大人双方にとって負担がない保育園経営を目指している。現在、事業所は4拠点あり、4月に名古屋市内に60人規模の認可保育園を新設する。



小澤社長

また、保育士の



読み聞かせの様子

事業として運営費を受けることができる。こうした資金で保育士の給与を上げ、休憩室を作った。休憩時間に作業をする保育士が多いことから、デスクは置かずゆとりよくつるがるよう和室に統一して無認可の場合は、財源は保護者からの保育料のみだが、認可になると、市からの委託正社員負担を分散させることで年間休日をもっと増やした。